

第5章 在来種調査

5.1 はじめに

黒島においては、クジャクによる在来種への影響が懸念されていることから、現状の在来種の生息状況をモニタリングすることは重要である。また、当該業務におけるクジャク駆除の実施による在来種の回復状況を評価するための基礎資料とすることを目的に調査を行った。

5.2 調査方法

(1) 対象種

調査対象種は爬虫類とした。

(2) 調査期間および時間帯

調査期間を表 5.1 に示した。調査は晴れか曇の日に設定したルートを日中の午前、午後と夜間の3回踏査し、目撃した種および個体数を記録することで行った。調査の対象とする動物種はおもにイシガキトカゲ、キシノウエトカゲ、サキシマスベトカゲとし、その他の爬虫類についても記録した。また、ルート外において確認した爬虫類においても任意踏査結果として記録した。

表 5.1 調査期間

年度	調査日
平成 28 年度	平成 28 年 7 月 19 日～22 日
平成 29 年度	平成 29 年 7 月 18 日～21 日

(3) 調査ルート

調査は、L-1～7（1ルート約 500m）の計 8 ルートで実施した（表 5.2）。

表 5.2 ルートの特徴

ルート	年度	周辺環境	舗装状況	クジャク確認
L-1	H28, H29	樹林・石垣	未舗装	多
L-2	H28	草地・ギンネム林・石垣	未舗装	多
	H29	同上	舗装	多
L-3	H28, H29	まとまった樹林	未舗装	少
L-4	H28, H29	まとまった樹林	未舗装	少
L-5	H28	牧場・小規模な樹林・人工構造物	未舗装	多
	H29	牧場・小規模な樹林・人工構造物・草本(前年より繁茂)	未舗装	多
L-6	H28	牧場・小規模な樹林	未舗装	やや多
	H29	牧場・小規模な樹林・人工構造物・草本(前年より繁茂)	未舗装	やや多
L-7	H28, H29	御嶽の樹林・牧場・石垣	舗装	少
L-8	H28, H29	牧場・小規模な樹林	未舗装	少

5.3 調査結果

平成 29 年度の確認種一覧および現地撮影個体をそれぞれ表 5.3 および図 5.1 に示す。当該調査では、黒島に生息するとされる爬虫類 12 種のうち(前之園および戸田, 2007)、1 目 4 科 9 種を確認した(確認できなかった種: オンナダケヤモリ、サキシマカナヘビ、ブラーミニメクラヘビ)。おもな対象種としたサキシマスベトカゲおよびイシガキトカゲは、草地ではほとんど確認されなかったが、樹林および樹林に隣接する未舗装道路などでは確認が多かった。また、キシノウエトカゲは任意踏査において 2 個体を確認した。

表 5.3 確認種一覧（平成 29 年度）

No.	科	種名・亜種名	学名	個体数（地点数）								任意踏査	貴重種	
				L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6	L 7	L 8			
1	ヤモリ	オガサワラヤモリ	<i>Lepidodactylus lugubris</i>	1(1)										
2		ホオグロヤモリ	<i>Hemidactylus frenatus</i>	10(6)	4(4)	2(2)	7(6)	13(1)	4(4)	3(2)	2(2)	9(7)		
3		ミナミヤモリ	<i>Gekko hokouensis</i>	3(3)	2(2)		1(1)							
4	トカゲ	サキシマスベトカゲ	<i>Scincella boettgeri</i>	1(1)	1(1)	1(1)	6(6)		2(2)	1(1)		4(4)		
5		イシガキトカゲ	<i>Plestiodon stimpsonii</i>	2(2)		2(2)			1(1)	2(1)		19(11)	●	
6		キシノウエトカゲ	<i>Plestiodon kishinouei</i>									2(2)	●	
7	ナミヘビ	サキシマアオヘビ*	<i>Cyclophiops herminae</i>										●	
8		サキシママダラ	<i>Dinodon rufozonatum walli</i>									1(1)		
9	クサリヘビ	サキシマハブ*	<i>Protobothrops elegans</i>											
計	4科		9種	17(13)	7(7)	5(5)	14(13)	13(1)	7(7)	6(4)	2(2)	35(25)	3種	

注.1 科名、種名・亜種名、学名、種配列は「日本産爬虫両生類標準和名」（日本爬虫両棲類学会 2017）に準じた。

.2 網掛けは、主に調査対象とした動物種を示す。

.3 貴重種の指定状況は以下のとおり。

【イシガキトカゲ】環境省 RL：準絶滅危惧

【キシノウエトカゲ】国指定天然記念物、環境省 RL：絶滅危惧 II 類、沖縄県 RDB：準絶滅危惧

【サキシマアオヘビ】環境省 RL：準絶滅危惧、沖縄県 RDB：準絶滅危惧

.4 *の種は、他項目調査において確認したことを示す。

【サキシマアオヘビ】2016.12.22 確認（L-2：1 個体）

【サキシマハブ】2017.02.21 確認（L-2 近傍：3 個体）



図 5.1 現地撮影個体

5.4 評価

平成 28 年度と平成 29 年度の調査結果の比較を表 5.4 に示す。比較の結果、爬虫類の確認個体数の合計は、140 個体から 69 個体へと減少した。

サキシマスベトカゲの確認個体数は、L-2、4、6、7 で増加し、L-1、3 で減少した。サキシマスベトカゲについては、調査ルートによって確認個体数の減少がみられたが、概ね平成 28 年度と変わらない生息状況であるものと考えられた。

イシガキトカゲの確認個体数は、L-6 で増加し、L-1、3、4、7 で減少した。特に L-3、7 においては大幅な減少がみられたが、原因は不明である。任意踏査においては比較の確認ができたことから、調査のタイミングによる変動の可能性もある。しかし、今後も減少が継続する場合には、その原因を検証したい。

キシノウエトカゲについては、平成 28 年度および平成 29 年度で確認した個体がすべて任意踏査時であった。いずれの年度の調査も確認個体数が少ない状況である。

表 5.4 平成 28 年度と平成 29 年度の調査結果比較

No.	種名・亜種名	個体数																		
		L-1		L-2		L-3		L-4		L-5		L-6		L-7		計		任意踏査		
		H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	
1	オガサワラヤモリ	3	1	1													4	1		
2	ホオグロヤモリ	12	10	4	4	4	2	10	7	11	13	5	4	21	3	67	43	16	9	
3	ミナミヤモリ		3	1	2				1	1						2	6	2		
4	サキシマスベトカゲ	2	1		1	5	1	5	6			1	2		1	13	12	2	4	
5	イシガキトカゲ	7	2			25	2	2					1	15	2	49	7	12	19	
6	キシノウエトカゲ																	1	2	
7	サキシマカナヘビ			1												1		1		
8	ブラーミニメクラヘビ												1			1				
9	サキシマアオヘビ																	●		
10	サキシママダラ					1				1						2		2	1	
11	サキシマハブ							1								1		●		
計	11種	24	17	7	7	35	5	19	14	12	13	6	7	37	6	140	69	36	35	

注.1 種名・亜種名、種配列は「日本産爬虫両生類標準和名」（日本爬虫両棲類学会 2017）に準じた。

- 2 網掛けした種は、主に調査対象とした動物種を示す。
- 3 ●は、他項目調査において確認したことを示す。
- 4 ■は、個体数が増加したこと、■は、減少したことを示す。

5.5 引用文献

前之園唯史、戸田守(2007) 琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. Akamata, 18 : 28-46.